

2023-2024年度
上野東ロータリークラブ クラブスローガン

「三十九の人
三十九の場を始めて
例会の始まらんとす」

週報

WEEKLY REPORT 2023-2024



世界に希望を生み出そう

2006/No.23

事務所 三重県伊賀市西明寺2756-104 ヒルホリビル7F伊賀内
TEL 0595-24-4650 FAX 0595-24-4656

例会 毎週木曜日 12:30点鐘 第3・第5週例会 18:00点鐘

URL: <http://www.ict.ne.jp/~u-eastrc/> e-mail: u-eastrc@ict.ne.jp

本日の例会 第2007回 2024年1月11日(木)

開会点鐘 12:30
国歌斉唱『君が代』・『奉仕の理想』
ゲストのご紹介・ビジターのご紹介
食事の時間
出席報告・会長の時間・幹事報告
ニコニコボックスの報告・委員会報告・同好会報告
本日の行事 会長年頭挨拶・年男放談 中井会員
閉会点鐘 12:30
職場見学会「三重中央開発(株)」

前回の例会 第2006回 2023年12月21日(木)

開会点鐘 12:30
ソング『四つのテスト』・『サライ』
ゲストのご紹介・ビジターのご紹介
誕生月のお祝い・米山記念奨学金贈呈
食事の時間
出席報告・会長の時間・幹事報告・ニコニコボックスの報告
委員会報告・同好会報告
本日の行事「定時制高校で学ぶ外国籍生徒の今」
上野高校定時制非常勤講師 平野昌洋様
閉会点鐘 13:30

12月誕生月のお祝い 鈴木親睦委員長

12月26日 西 三郎 会員



米山記念奨学会奨学金贈呈 中井委員長

張さんはアニメ関係の
就職先を考えています
協力お願いいたします。
張 茜茜 会員



出席報告

西出席委員長

誕生月をお祝い



頂きありがとうございました。

本日の出席率 78.18%

2002回11月16日修正出席率

80.65%より97.77%になりました

『会長の時間～師走の忙中閑(ぼうちゅうかん)』



師走に入り今年も10日ほどとなりました。さて、師走といいますと、何かと気ぜわしい時期であります。年末で多忙なこともありますが、そうでなくても師走は何かしらそわそわと浮足立ってしまうのではないのでしょうか。つい、ミス事故などが起こりがちであります。交通事故だけに絞って過去3年間の月度別の交通事故件数を調べてみると、やはり師走、12月が圧倒的に交通事故件数が多くなっておりました。人やモノの動きが多く心の中も新年を控えてつついアクセルを踏んでしまうのではないのでしょうか。

“忙中閑(ぼうちゅうかん)”という言葉があります。私は当初、禅語の一節かなと思っておりましたが昭和初期のある思想家の座右の銘だそうであります。“忙中閑あり”という諺があり、忙がしい中にも多少の閑はあるもんだ、というぐらいの意味でしょうか。ただ、表題の“忙中閑”は少し意味合いが異なります。“閑”を“ひま”と捉えず、“閑(しずけさ)”と捉え、本当の静けさ、心の落ち着きは、“忙中”つまり騒がしい状況の中にあると考えます。

小難しい講釈よりも具体例を挙げてみると・・・・・・ ゴルフの最終ホール、1mのパットを沈めると優勝が決まるという瞬間・・・・・・ 周囲のギャラリーはざわつき、当の本人の胸中も心臓バクバク あるいは、同点で9回の裏、2死満塁、3ボール2ストライク 野球の試合で観客や選手が最も緊張する瞬間である。こういった“忙中”にこそ、より良い結果に導く為には、その渦中にいる者がより一層に心を落ち着け緊張している自分をもう一人の自分が見つめるぐらいの余裕を持ち気持ちをざわつかせる局面を乗り切りたいものである。

1年、12ヶ月ある中で師走(12月)は何故かしら最も心が騒々しくなる“忙中”である。こんな時こそ、忙しく駆け回っている自分にもう一人の落ち着いた自分が「オイオイ、何を急いでいるんだい。そんなにアクセルを踏み込んでも到着時間はそんなに変わらないよ。」と声を掛けてあげようではないか。穏やかな心で新年を迎えるために・・・・・・

幹事報告 西口幹事

・棚に、当クラブ青少年育成事業の
「第19回読書感想文コンクール特選文集」を入れておりますので一読下さい。
・12月28日、1月4日は特別休会となります。例会再開は1月11日となります。お間違えの無いようお願いいたします。
事務局につきましても12月28日から1月8日までお休みとなります、何かございましたら幹事までご連絡下さい。

会場監督 神戸SAA

上期、ご協力ありがとうございました。12月の食事ロスの報告です、本日1食、12月計は1食です。前日までの欠席のご連絡宜しくお願いいたします。

ニコニコボックス報告 東委員長

長谷川会長

平野先生、本日の卓話どうぞ宜しくお願いします。

西口幹事

上期御世話になりました、良いお年を！！ 平野様卓話宜しくお願い致します。

中井会員

米山委員長として上期ありがとうございます。早退のお詫び。

神戸会員

上期SAAにご協力ありがとうございました。良いお年をお迎えください！！

小林会員

例会・忘年会欠席のお詫び

鈴木会員

平野昌洋様！！本日卓話宜しくお願いします。

栗本会員

平野先生、本日の卓話楽しみにしています。

子日先生

平野先生、本日に卓話楽しみにしています。

宮田会員

長い間お休み頂きました。皆様良いお年をお迎え下さい。

中里会員、三山会員

上野高校平野先生、今日の卓話宜しくお願いします。1年間お世話になりました。

西会員、出後会員、三谷会員、南会員

上期御世話になりました。来年もよろしくお願いします。

神崎会員

1年間お世話になりました。来年もよろしくお願いします。

中尾会員

良いお年を！

中村会員

皆様よいお年を。

山森会員

欠席のお詫び。

前田会員

先週合同例会欠席のお詫び

西会員

ホーム例会いっぱい欠席のお詫び

栗本会員

上期、欠席が多く失礼しています。

宮岡会員

前田さんNHKのど自慢お疲れ様でした。皆様よいお年を！

平井会員

ニコニコボックスに協力します。

東会員

上期ニコニコボックスにご協力本当にありがとうございました。

下期も上期以上のご協力お願いいたします。

本日合計35,000円 上期合計600,333円



財団部門 中尾部門長

BOXの中に、国際ロータリー第2630地区財団学友会主催の「バレンタインコンサート」のチラシが入っております。集まった金額より100万円、ポリオ撲滅に寄付いたします。行かれる方がございましたら事務局までご連絡下さい。



ロータリーの友読みどころ 神崎会員

「12月は疾病予防と治療月間」

- ・横読み10P「認知症を知ろう！」
 - ・横読み34P東近江RCの高校模擬面接。
(先日上野東RCでも実施。)
 - ・縦読み16P友愛の広場、認知症に今、ロータリアンげ出来ること
 - ・縦読み13Pお正月といえはお餅。
- 皆様もぜひ一読ください。



次年度役員発表 鈴木次年度副会長

次年度役員発表を致します。

上野東RC細則第3条第2節に基づき、次年度会場監督に前田欣也君。

上野東RC内規1号の1に基づき、次年度副監督に平井俊文君、副幹事に宮岡秀樹君を選任いたしました。

理事3名、北澤毅君を奉仕部門長に、松本正博君を財団部門長に、東弥代君を親睦委員長に。また慣例によりまして副会長の木津直樹君を会員組織強化部門長に、次年度副会長の鈴木孝治君をクラブ運営部門長に指名いたしましたのでご報告申し上げます。



本日の行事

「定時制高校で学ぶ外国籍生徒の今」

上野高校定時制非常勤講師 平野昌洋様

長谷川会長より平野昌洋様のご紹介

大学を卒業され、39年間伊賀地域の高校を中心に教壇にて活躍され、2年前に退職。現在は週2回上野高校定時制の非常勤講師として教壇に立たれております。また退職後、果樹栽培の勉強をされ、名張市美旗にてみかんやシャインマスカットを栽培されております。



定時制高校で学ぶ外国籍生徒の今と題してお話させていただきます。先ほどご紹介いただいた平野です。上野高校定時制での勤務は正規の教員として5年、非常勤講師として現在週2回2時間勤務して2年の、計7年になります。その7年間のお話になるかと思います。

1990年以降、入管法の改正で日系人の移民が急増しました。2009年のリーマンショックや2011年の東日本大震災で減少するものの、現在では、日本に在住する外国籍の人々は300万人を超え、日系人だけではなく、アジアを中心に様々な国籍の人々が入国し、居住しています。

伊賀市には1990年ごろから日系人が増加し始め、民間や行政の対応がはじまります。最初に立ち上げられたのが「伊賀日本語の会」。今年設立30周年を迎えました。先週祝賀行事が行われました。今では40ヵ国以上の外国人が伊賀市に住んでいます。人口比では伊賀市は三重県で二番目に外国人率が高い6.91%です。最近ではベトナム人の増加が目立ちますね。

こちらは本校の卒業生へのインタビュー記事です。現在大学准教授のAさん。彼女の母が1990年、父が1991年、本人と一つ上の兄が1996年来日します。記事には、「人々の善意受け、定時制経て大学院」とありますね。

私が赴任した7年前からいまでの定時制での体験を通して、「定時制高校の外国籍生徒の今」について、Aさんの後輩たちについてお話しします。定時制では、17:25～21:00まで、4時間の授業があります。多くの生徒は仕事を持ち、仕事が終わってから登校し、授業に臨みます。途中、おいしい給食もあります。

赴任してすぐに、2年生の担任になりました。外国籍生徒は、クラスの半分で、4学年の内外国籍生徒が一番多い学年でした。彼らは全員が日本生まれです。日本語の読み書きでき、母語の読み書きもできますが、個人差はあります。全員が伊賀市内の中学を卒業後入学してきました。彼らは学校では日本語を話しますが、家庭では母語で家族とは会話をします。学校では、日本語で話しているかと思えば、いつの間にかポルトガル語の会話に変わったりしました。

3年間彼らを持ち上げました。そんな中で、保護者は生徒ほど日本語に通じておらず、何度通訳が常駐していれば、もっとコミュニケーションが取れたのにと、痛感しました。日本語が流ちょうに話せても、読み書きが不十分な生徒と、養護教諭、私の三人で3年間続けた交換日記は、生徒の読み書きの能力を格段に上げました。

ほぼ全員が、4年間仕事を続け、家計を助けながら通学し、希望する進路に就職、進学し卒業しました。

私は、卒業生を送ったその翌月、新1年生の担任になりました。新1年生は8名で、外国籍生徒は6名でした。国籍も多岐にわたりました。そんな彼らを、私は、「奇跡のクラス」「ワールドワイドなクラス」と呼んでいました。張りきった私は、保護者も教室に入っている入学式後の最初のHRで、Aさんをお願いして新一年生に対してメッセージをいただいて、それを朗読しました。HRがはかどるように、パワーポイントも用意しました。でも、役に立ちませんでした。なぜでしょう。それは、6名の外国籍生徒の内、日本生まれは2名で、あとの4名の内、小学5年生で1名、中学2年生で1名、現地の中学校卒業後が2名で、日本語の理解が不十分だったのです。多くは小・中で、日本語の支援を受けていましたが、中学卒業後來日した2名は、「伝丸」さんの支援を受け日本語学習を続けていました。

今、上野高校定時制では、日本語支援のための、授業があります。一つが「言語活動」という授業です。1年生で週2時間あります。日本語の四技能(聞く、話す、読む、書く)を高めることが目的の授業です。やさしい漢字の読み書きや、日本語の言い回しを練習します。

授業には日本語サポートの先生も入ってくれます。国語、地理歴史・公民、理科、保健、家庭の授業で、生徒の理解を助けます。

その年(2020年)の9月から半年間フィリピン人の生徒が3名と多かったため、タガログ語を話せる日本語指導専門員を県が派遣してくれました。伊賀市在住のフィリピン人の先生で、生徒・保護者理解が一挙に進み、生徒も悩みを相談したりして、とても慕っていました。その先生による始業前の、日本語講座も始まりました。この講座は翌年、日本語教師の資格を持つ非常勤講師の先生による、始業前の日本語教室に引き継がれます。そして、現在では「総合的な探究の時間」の日本語班に引き継がれ、4年間、週一回ですが、継続して授業時間内で、日本語が学習できるようになりました。日本語能力検定1級合格者も出ています。

さて、「奇跡のクラス」の彼らも今年4年生となり、まもなく卒業を迎えます。最後に、7年間の短い経験のなかから感じた課題をお話しします。

- ①母語で考えることができるのに、日本語ができないだけで能力を低く評価されてしまうことがある。多くの生徒が母語と日本語の両方を理解し、少なくともどちらの言語も話せるバイリンガル(2言語を自由に使いこなす人)の素質を持つのに、もったいない。
- ②授業の理解を助ける日本語指導員(非常勤講師として県から配置)は置かれていますが、通訳や母語を話せる教員は常駐していません。通訳や母語を話せる教員がいれば、生徒の思いが理解でき、生徒も悩みが相談しやすく、保護者も気軽に相談できます。通訳や母語が話せる教員がいなかったために、日本人生徒、保護者であれば当たり前のことも、外国籍生徒、保護者には保障されていません。
- ③タガログ語を話せる「日本語指導専門員」は、2020年の半年以降配置されていません。県教委では人材確保を目指しています。お知り合いがいればご紹介ください。

2023年、5月現在、定時制生徒数は40名で、そのうち21名が外国籍の生徒となりました。彼らの夢が実現し、安心して学校生活が送れるように、環境整備へのご協力をお願いして、私からのお話を終わります。ご清聴ありがとうございました。

令和6年1月11日 『元会員 石橋美弘サン訪問記』

長谷川真嗣

今年も残り1週間余りとなったクリスマスイブの12月24日の夕方、所用があつて元会員の石橋美弘サンのご自宅を訪問した。玄関のドアを開けると、普段着をお洒落に着こなした石橋サンが笑顔で立っていた。

「オオッ！長谷川君やないか。今年は重責やな。」穏やかな口調で声を掛けていただいた。ご長男の弘彰サンに話を聞くと毎日よく食べとても元気だそうである。年が明けて、御年90歳だそうだが足腰もしっかりしておりクラブに在籍しておられた頃と何も変わらないという印象であった。「どうぞ良いお年をお迎え下さい。」と挨拶をして、玄関前に駐車してあった車の所までわざわざ出てきていただいた石橋サンに見送られながら、ご自宅を後にした。

